

OTAKE

一般社団法人
大竹青年会議所
広報誌 VOL.18

大竹青年会議所



我々 JAYCEE は
明る い豊か な社会 を
築き 上げ ます



人間力開発部門
副理事長

網代木 秀太

「Leadership」

2019年度は人間力開発部門の副理事長を拝命し、理事長の掲げるスローガン「一志懸命」～命を燃やし、未来の礎となろう～のもと、強い絆育成委員会を担当させていただきます。

青年会議所は「ひとづくり」「まちづくり」を行っております。その中で、「まちづくり」はそこに住まう人が行うもので、そこに住まう人がしっかりとした志を持ち、行動を起こしてくことで、その活動が多くの人々の目に留まり、小さな渦が、やがては大きな渦となり、本当の明るい豊かなまちへと変わっていくと考えます。では、誰が最初にその流れを作るのか？それは青年会議所ではないかと思えます。これまで、諸先輩方がそうしてきたように、これから先も青年会議所は「まち」の先頭にたち、そこに住まう人を牽引し、明るい豊かなまちへと変えていくべく活動してまいります。

「有志よ来たれ！」

私は、一般社団法人大竹青年会議所2019年度会員拡大部門の副理事長を務めます小山と申します。会員拡大とはその名の通り、会員を増やすことを使命とする部門です。

青年会議所会員は広域的に様々な職種の人たちの集まりであり、社会の縮図であると言えます。そのような中で多くの仲間が集い、語り合い、共有して事業を成し遂げることで、自分自身を大きく成長させる機会をもつことができます。これらを自分自身の成長の機会として捉えられる青年たちがまちの未来を考えていくこと、これこそが青年会議所活動の原点であると考えます。明るい豊かな社会の実現は、我々市民に、より豊かな社会生活を生み出す源泉であり、自分自身の将来に必ず返ってきます。私たちの未来は会員拡大にあると信じ、担当委員長をはじめとする組織での拡大活動を日々展開しております。住みよいまちの未来のために、是非とも我々と共に活動しましょう。



会員拡大部門
副理事長

小山 剛司



専務理事

高橋 央史

「会を円滑に運営いたします」

本年度専務理事を拝命しております高橋です。専務理事として、会の円滑な運営を行うために、時間の大切さや他者の協力を得ることの尊さを心にとどめ、かつ、行う事業が最大限の効果を発揮することができるよう心がけています。また、会員を支える身近な方々と交流を図るなどの機会を設け、活動への理解をいただき、さらなる協力を得ることで魅力的な会にしていきたいと考えています。

日野理事長の掲げるスローガン、「一志懸命」～命を燃やし、未来の礎となろう～の想いを實現し、本年度の活動が、未来の大竹青年会議所の繁栄に繋がるよう、会の運営に取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

新年例会



専務理事セクレタリ
前田 利祥

気持ち新たに2019年度が始動しました。勝禅師の醍醐住職より本年に向けてお言葉をいただき、新年例会では本年度の理事長所信や、各委員長の思いや活動方針を発信し、先輩方と交流する機会、新たなメンバーで、この一年を走り抜けていく想いを伝えました。初めての役職と、新年初めの例会を担当させていただくという事で、緊張や不安がありましたが、会員の皆様に準備、設営などを協力していただいて無事に設営することができました。例会中も大きなミスもなく自分の役職に集中することができたのは会員が一丸となったからこそだと感じました。

委員会タイムでは先輩方と交流し、本年度の大竹青年会議所の活動を知っていただけたとともに会員が先輩方をもてなすために様々な工夫を考え会員が一致団結したからこそこの結果だと考えます。また、無事に最後まで終えるためにはどれだけの準備をすることの大切さ、やりぬくことの重要性を知りました。この一年で培った経験を成果に表せるよう次のステップに上げられるよう邁進してまいりますのでよろしくお願いいたします。



2月例会



会員拡大委員会
委員長
田宮 佑一

2月例会は初の委員長としての例会でありましたので、事前準備もできており、進行については落ち着いてタイムスケジュール通りに行うこと、参加者全員に理解してもらえるように心がけ、パワーポイントによる資料では試行錯誤し視覚的にも伝えることができました。内容につきましては、この一年間組織として拡大活動に取り組んで欲しいということで、個人・組織での活動にどのような違いがあるのかを全員で考えるということを行いました。新規の候補者を挙げる際は情報を得る事が必要になり、そこで人とのネットワークが一番必要となります。ネットワークを築く際、一人より二人、二人より三人と多数で行うことで、効率よく圧倒的に情報量が多く得ることができます。今回の例会では、そのことを理解して頂いたと思いますので、全会員一丸となって拡大活動に取り組むことができると確信しております。例会中に拡大活動に対し宣言文を記載して頂きました。宣言した内容に責任を負って、これからの活動に望んでいこうと思います。



3月例会



広島ブロック野球大会実行委員会
副実行委員長
河野 大輔

本年度、大竹青年会議所は広島ブロック内12LOMの会員が友情を育む事を目的として、広島ブロック野球予選大会を主管いたします。野球予選大会へ向けて設営・運営を行うにあたっては、全会員が大竹らしく一致団結し、事業に望んでいくことが重要であり、会員同士が連携を強める機会として、3月例会を開催させていただきました。

この度の例会では、お互いを助け合うチームプレー意識を向上する事を目的として、野球予選大会のメイン会場である、晴海臨海公園球技場にて大竹青年会議所シニアクラブ会員の諸先輩方にご協力いただき、壮行試合を行いました。当日は、海風の吹き荒れる、大変寒さを感じる中での開催となりましたが、それでも各回の中で、会員同士がお互いに声を掛け合い、輪となって意気込みを叫び合い、助け合うことにより、野球予選大会へ向けての大竹青年会議所会員のチームプレー意識を向上することができたと考えます。また、この例会を無事終えることができたのは、大竹青年会議所シニアクラブ会員の皆様の、温かいご支援とご協力があったからこそであると考えております。誠に有難うございました。



4月ブロック会長 公式訪問例会



専務理事セクレタリ
前田 利祥

中国地区広島ブロック協議会の役員の皆様を迎えての例会で、設営側でもあり発表をする側でもあるということもあり、緊張をする場面の連続でした。例会のテーマが「会員の特性を知る」ことです。技術進歩の加速によって私たちの仕事内容が変化し、5年後10年後の未来を見通すことが難しくなっていますが、私たち青年会議所はそのような時代においても明るい豊かな社会の実現のため、行動をしなければなりません。その行動目標として世界でSDGsの17項目が掲げられていますが、一人の者だけで行っても目標達成することは容易ではありません。

青年会議所は同じ業種ではなく、異業種が集まっている団体です。だからこそ見えてくる強みがあり、会員の得意分野を繋げることでSDGs目標達成に近づくと考え、この例会を通して対談やグループディスカッションを行いました。この例会で青年会議所会員の特性を知ることでき、SDGsを通して今後の事業に対する取り組み方も知っていただくことができました。今回の経験を今後の青年会議所活動だけでなく、会社経営にもつなげていきたいと思っております。



会員拡大委員会
委員長

田宮 佑一



2月対外事業、大竹ジュニアランニングスクールは私の兼ねてからの希望でもありました。青年会議所所在籍中に、必ず自分にしかできないことをするというのを思っておりました。今回は2月例会と同時期ということで、かなり時間の限られた中での企画でした。そのような中で、会員拡大委員の皆様が協力をして頂いたこともあり、どうにか事業を開催することができました。本当に感謝しております。また、一番懸念していた参加者数が、目標としておりました定員に達したこともあり、この事業を成功させようというモチベーションを保つことができました。

事業当日は、大人も子供も皆が真剣になっている様子・笑顔でふれあう様子を見ることができ、これが本来あるべき事業の姿ではないのかというような思いがいたしました。今回、大きな事故もなく事業を終えることができ、一安心しておりますが、設営する気持ち、参加する気持ち、実際に企画・設営を一連の活動を通して行うことの思いの違いを感じることができたのは、私のこの事業の成果と思っております。



私たちの活動には様々な発見や気づきがあります。
私たちと一緒に活動してみませんか。



URL: <https://www.otakejcc.com>

2019年度一般社団法人大竹青年会議所 発行